

氏名	永野拓也
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3492号
学位授与の日付	平成12年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Cytokine Profile in the Liver of Primary Biliary Cirrhosis (原発性胆汁性肝硬変肝組織中のサイトカインプロフィールの検討)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 赤木 忠厚 教授 原田 実根

学位論文内容の要旨

原発性胆汁性肝硬変(PBC)は小葉間胆管の著明なリンパ球浸潤と胆管破壊を特徴とする臓器特異的な自己免疫疾患で、胆管破壊の機序には細胞性免疫と液性免疫の異常、胆管上皮抗原に対する自己免疫反応が推測されている。我々は、細胞性免疫に関わる Th1 と抗体産生に関わる Th2 の二つヘルパー T 細胞(Th)が PBC の病態にどのように関与しているかを明らかにするため、PBC 肝組織中 Th1/Th2 サイトカイン mRNA を RT-PCR 法を用いて解析し慢性 C 型肝炎(CHC)と比較検討した。

IL-10、IFN- γ mRNA の発現は PBC と CHC のほぼ全例にみられたが、IFN- γ mRNA の発現量は PBC で多く、一方 IL-10 mRNA の発現量は CHC に多かった。PBC は CHC に比べ IL-5、IL-6 mRNA の発現頻度が高かった。また、PBC 肝組織中には高頻度に好酸球浸潤が観察され、IL-5 mRNA 発現と関連を認めた。

以上より、PBC の病態には Th1、Th2 サイトカインが共に強く関与していることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、原発性胆汁性肝硬変(PBC)のサイトカインのプロフィールを慢性 C 型肝炎(CHC)と比較して検討したものである。その結果、PBC では、CHC に比べて Th1 型の IFN- γ の mRNA の発現が高く、また Th2 型のサイトカインでは IL-10 の mRNA の発現は低いものの IL-5、IL-6 の発現は高い結果を得た。これらの知見は、PBC には Th1 および Th2 両方のサイトカインが関与していることを示唆しており、PBC の病態を考慮する上で、価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。